

農の進化の中で先達に学ぶこと

バイオダイナミック(生命力働)農法と実践について

有機農業と言われるものにはいろいろな方法があります。遺伝子組み換えを使用しない、不耕作、農薬や化学肥料や除草剤を使わないなど栽培方法や考え方、分類の仕方は様々です。それぞれに考え方がありますが、今回有機農法の一つであるバイオダイナミック農法についてご紹介することにしました。この農法は今から100年前、ルドルフ・シュタイナーというオーストリア生まれの哲学者・思想家によって示唆されたものです。その哲学を基盤とした教育や医療なども現在広く実践されています。

今回、熊本県の阿蘇で長年バイオダイナミック農法を基盤に有機農業を実践されている假野祥子氏をお招きして、その考え方や農法をご紹介することにしました。その最大の魅力は考え方の基盤です。農業関係者の方はもちろん食や農業に関心のある方の多くの参加をお待ちしています。

なお、この講座はシュタイナー幼児教育者の養成コースの一環として実施されており、その一部を一般の方に公開する形で皆様にご案内しています。

時 間：2024年12月8日（日）

10時半～12時 10時15分より受付を開始

場 所：メルヘンこども園 宇部市大字西岐波下片倉329-10

（連絡先：当日のみ・0836-51-9802）

定 員：10名（会場の都合がありますので定員に達したら締め切ります）

参加費：1500円 当日会場でお支払いください。

申し込み方法：12月6日までに以下のアドレスにお申し込みください。

shutainayousei@gmail.com

主 催：シュタイナー教育者を育てる会

後 援：NPO 法人メルヘンこども園 NPO 法人福岡シュタイナー学園

講師ご紹介

假野祥子(カノヨシコ)氏

1959年1月20日、大分県玖珠町生まれ。幼少期から小学校6年までを神奈川県鎌倉市で過ごし、その時の体験から自然界における人、植物、動物の関係性について強い関心を持つ。高校生の時、授業の中のひとつである男女共習の「生活科」の学びの中で社会や環境における「多様性」を学び、その重要性を実感する。

1981年大学3年(教職課程)在学中、休学しフランスのオーベルニュの有機農家の元で農業研修。研修中フランスの有機農業推進団体「ナチュレ&プログレ」の技術指導員で酪農家のドニー・ピリオと出会い1982年に日本に帰国しドニーと結婚。千葉市内に開墾から始め、ぼっこわば農園を拓く。当時、仏教を学んでいた母からシュタイナーを紹介される。その関係で知った彼の講演録「農業講座」の内容に感銘を受け、それまで平面的であった自然界の認識が「球体」になり、進化の過程に導かれたように思った。この世界観を何とか実践し踵したいとドニーと強く思い、ぼっこわば農園を営みながらバイオダイナミック農法の学びと実践に試行錯誤しながら取り組む。この間、フランス、西ドイツ(1980年代)、スイスでドニーとバイオダイナミック農法の講座や実習に参加。)

1990年、バイオダイナミック農法の実践と研修希望者の受け入れ農場を拓くために家族、支援者、有志と共に熊本県南阿蘇村(旧長陽村)に移住。

「ぼっこわば耕文舎」を新たに拓き、中山間地特有の「里山」にバイオダイナミック農法の大切な認識である多様性に満ちた「ひとつの有機体」である農場を営み調えるべく、志しを共にする仲間たちと共に、それぞれの価値観を大切に、個人の存在が埋没しないよう緩やかなコミュニティ作りを継続中。

※種まきカレンダーを1986年から毎年発行。

(一男一女の母、一女一男の祖母)。

(南阿蘇村環境保全農業推進協議会会員、南阿蘇村農業研修生受け入れ協議会農業者、NPO 法人日本バイオダイナミック協会理事)

